3月12日　神奈川新聞

プロの技で堤防草刈り

県建設業協会県央支部 60人がボランティア

厚木　県建設業協会県央支部（厚木市栄町、大野治雄支部長、55社）は4日、同市厚木の相模川三川合流地点周辺の堤防や河川敷に生えている草刈りのボランティアをした。会員企業の従業員ら約60人が集まり、相模川に架かる「あゆみ橋」厚木側上流500㍍ほどの区間の草を刈り取った。

周辺の複数自治会でつくる厚木北地区自治会連絡協議会（稟進（なつのすすむ）会長）の相談を受けて、実施した。

降雪予報が出る寒さの中、参加者はエンジン付きの刈り払い機を構えて草むらに踏み込み、次々と草を刈り取った。大きなはさみ型のアタッチメントを付けた重機3台も用意し、刈り取った草をつかんで集積場所に集めた。

三川合流地点は夏には同市最大の観光イベント「あつぎ鮎まつり」の主会場となるエリアで、春には数多くの桜で彩られる。暖かい季節を中心にバーベキューなどで訪れる人も多いが、堤防の斜面などにたくさんの草が生え、冬は枯れて乾燥した状態となっている。

バーベキューやたばこの火の不始末などで、たびたび草が燃える火災が起きているという。「堤防近くに民家が並んでおり、火種が飛んでくると危険」と稟会長。

自治会で草刈りをしたこともあるが、堤防の斜面などはやりにくかったといい、稟会長は「プロはすごい。ありがたい」とその作業ぶりに感謝の言葉を口にしていた。（石本　健二）

堤防の斜面の枯れ草を次々と刈り取っていく県建設業協会県央支部の会員＝厚木市厚木

3月14日　タウンニュース（厚木・愛川・清川版）

建設業協会

三川合流点で草刈り

ボランティアで美化貢献

（一社）神奈川県建設業協会県央支部が3月4日、厚木市厚木町地内の相模川等三川合流点付近の河川堤防で草刈りボランティアを実施した。当日は会員ら約50人が参加し、地域住民と協力して作業を行った。

草刈りを行う会員ら（同支部提供）

作業場所となった三川合流点付近は、市民の憩いの場として親しまれている一方、雑草の繁茂が景観を損ねているだけでなく、火災の原因となることが懸念されていたという。地域住民からは、高齢化などの理由で草刈りの実施が難しいという声が上がっており、要請を受けた同協会が草刈りに協力した。

草刈りは、春の火災予防運動（3月1日～7日）の期間中であることや、お花見シーズンを前に地域住民が安心して河川敷を利用できるよう実施。同支部の会員が刈払い機や車両、重機を持ち込んで早朝から作業を始め、手際よく草を刈り取り集草、重機によるダンプへの積み込みまで行った。

河川を管理する厚木土木事務所は、周辺の草刈りを定期的に実施する方向で調整しているという。同協会は「今後も地域貢献活動に積極的に取り組んでいきたい」と話した。